

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（ 松阪工業高等学校 定時制課程 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒一人ひとりが基本的な生活習慣を身につけ、社会生活に適応し、個に応じた自己実現を果たすことを支援する学校 ○生徒の相互理解の精神を育み、相手の立場に立って考える人権感覚を養う学校
(2)	育みたい児童生徒像	○働きながら、前向きに学習に取り組む意欲を有する生徒
	ありたい教職員像	○生徒の個性を伸ばし、人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 理解しやすい授業、基礎学力の向上と、居心地の良い学校</p> <p>&lt;保護者&gt; 基本的な生活習慣を身につけること、基礎学力の向上と、安全安心して通える学校</p> <p>&lt;進路先&gt; 基礎学力があり、コミュニケーション力のある人材</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>&lt;家庭&gt; 子どもや学校の現状の報告 &lt;中学校&gt; 学校の様子と卒業生の近況報告</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>&lt;家庭&gt; 学校教育活動への理解と協力 &lt;中学校&gt; 継続的・効果的な指導のための個々の生徒の情報共有</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○命を大切にする教育については家庭との連携を密にして取り組む必要がある。環境学習等、地域と連携した活動にも今後取り組んでもらいたい。</p> <p>○教職員の年齢構成と深い経験を十分に活かし、各教職員のさらなる資質向上と教育活動の活性化を図られたい。</p> <p>○校外の人たち（多文化、異世代）とふれあうことによって新しい自分の良さに気付かせることはよいことである。イベントへの参加を積極的に行うことで様々な気づきが生まれるのではないかな。</p> <p>○生徒の自己肯定感を高めるためには資格取得の取り組みをさらに推進することも有効である。</p> <p>○入学志願者の確保という点からも、取組の成果を小学校・中学校等に披露し、学校間の連携を深め、本校教育の理解を深めることを務める。</p> <p>○学校の魅力をよりアピールする工夫を行う。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。</p> <p>○キャリア教育の充実と、生徒が主体的・対話的に深い学びができるように授業改善に取り組んでいく。</p> <p>○日本語に課題のある生徒については、入学時の現状認識から取り組み、継続的に指導を深められるように全職員が情報共有を行い、効果的な指導に取り組むように努める。</p> <p>○小中学校で不登校を経験している生徒や他校より再入学してくる生徒等、在校生は多様化している。また、生徒の多くが悩みや課題を抱えている。</p> <p>○近年、外国人生徒が増加傾向にあり、令和2年度の外国人生徒の在籍数の割合は 46.6% (27/58名) を占めている。そのため、学校生活の中で、文化の違いやコミュニケーションにおいて困難な場合がある。</p>	

学校 運営等	<p>○生徒一人ひとりに対し、生徒面談や教育相談等、きめ細かな指導体制をとっていく。</p> <p>○個人面談の充実と職員の情報共有を積極的に行い、組織的な指導の向上に努める。</p> <p>○生徒の基礎学力向上と外国人生徒の日本語指導力向上のため、ICT 教育、JSLカリキュラム等教職員研修の継続と教材の開発をしていく。</p> <p>○少人数の教職員集団によって、多様な生徒の自己実現に向けて、いかに適切な対応をはかるかが大きな問題である。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○個別指導(三者面談・家庭訪問・教育相談等)を実施することにより、基本的な生活習慣・自らを律する精神を生徒一人ひとりが身につけている。</p> <p>○多文化理解教育を行い、他の国の文化や習慣を相互理解し、他人を思いやる心を持っている。</p> <p>○学習および学校活動への興味・関心・意欲を生徒一人ひとりが持ち、積極的に参加する学校となっている。</p> <p>○基礎学力の向上の取り組み等を推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていくとともに、コミュニケーション能力の向上、職業選択能力や、勤労観・職業観の育成を図る。</p> <p>○命を大切にする教育、主権者教育の充実を図る。</p>
学校運営等	<p>○生徒に提供する授業内容を充実し、基礎学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業公開や授業研究などを行うことにより授業改善をすすめる。特に、生徒自身の能動的、主体的な学びを意識した授業づくりを進める。</p> <p>○教職員が相互に学び合い高め合うことで資質能力を向上させ、学校の組織力を高める。</p> <p>○総務事務の集中化、教職員育成支援システム、学校関係者評価等、新たな制度の導入が進む中で、会議の効率化や仕事の平準化などにより、勤務総時間の縮減を図る。</p> <p>○三重県いじめ防止条例を理解し、その趣旨に基づく取組に努める。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立を支援し、社会生活への適応を図るとともに、道徳教育や人権教育をはじめとする教育活動全体を通じて、命を大切にする教育を行う。</p> <p>(2) 三重県いじめ防止条例に基づき生徒が主体的かつ自主的に行ういじめの防止に資する活動を支援する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○授業間の巡回指導を毎日行い、個別指導を徹底する。</p> <p>○校門での登校指導・挨拶指導を週1回程度実施する。</p> <p>○総合的な探究(学習)の時間等において、人権講話や薬物乱用防止講話等、命の大切さや規律の大切さについての講話を年10回以上実施する。</p> <p>○問題行動の未然防止につとめて指導を行う。</p> <p>○いじめの早期発見に対する生徒の意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS の使い方の指導、使い方調べを学期に3回程度実施。</li> <li>・担任等と生徒の対話を増やし、早期対応に心がける。</li> <li>担任は週一回は各生徒と対話ができるように心がける。</li> </ul> <p>○担任と生徒との対話を心がけ、卒業まで頑張らせる指導を充実する。</p>	<p>今年新型コロナウイルス対策のため、生徒の登校時に教員が毎日、生徒の検温を行い、声掛けを積極的に行った。</p> <p>生徒と教員の信頼関係をよりよくすることができた。</p> <p>このことにより、健康管理にとどまらず、担任と生徒との対話の機会が増え、問題行動を未然に防いだり、いじめの防止・早期発見に役立っていると考えられる。</p>	◎

	<p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題行動の減少。(平成31年度実績 3件)</li> <li>○中途退学者の減少。(平成31年度 5人)</li> <li>○いじめの認知を積極的に行い、早期、継続的にその解消に努める指導を心がける。いじめは存在しなかった又は存在したが早期に組織的に継続した指導を行い、解消することができた。</li> </ul>	<p>令和2年度問題行動5件 令和2年度中途退学者1名 いじめの質問紙調査は年3回行った。平素から担任が生徒と面談や対話を心がけ組織的に継続した指導を行い、解消することができた。</p>	
学習指導	<p><b>(1) 基礎・基本を重視した授業を推し進め、生徒の基礎学力の向上を図る。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現のために教科ごとに研究授業に取り組む。研究授業を年3回以上実施する。</li> <li>○基礎学力テストを2回／年実施し、生徒の基礎学力の実態把握及び基礎学力の伸長を図る。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりの学習意欲を向上させる。</li> <li>○生徒の実態を勘案しながら、オンライン授業、HR等ICT教育の活用に努める。</li> </ul> <p><b>(2) 外国人生徒の日本社会への適応のために、日本語の習得に重点を置く。また、多文化理解教育を推し進め、国際的な人権感覚を養う。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人生徒担当者会議を各学期に1回以上、日本語指導研修会を年1回以上実施し、日本語の習得状況の把握、効果的指導法等を話し合う。</li> <li>○国語の授業等を中心に、漢字、語彙力向上の取り組みを行う。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語能力テスト等の結果を指標とする。</li> <li>○生徒が互いの文化を尊重し相互理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業については様々な形式による研究授業を本年度は、4回行った。</li> <li>・中学生への体験授業の提供による研究授業1回&lt;新&gt;</li> <li>・中学生等への授業公開週間(1週間)</li> <li>・教育委員会への公開授業1回&lt;新&gt;</li> <li>・初任者研修に係る研究授業1回</li> <li>・基礎学力テストを2回実施した。日本語習得状況の把握、効果的な指導法については、今年度3回開催。</li> <li>・問題集や手紙の書き方などの指導により、漢字、語彙力向上に取り組むことができた。</li> </ul>	
進路指導	<p><b>(1) 生徒一人ひとりの能力と適性に応じた進路の実現を図る。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生から継続した進路指導を実施し、生徒一人ひとりの進路希望の実現を支援する。生徒一人ひとりの個別面談を年3回以上実施する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○4年生の進路希望を実現させる。</li> </ul> <p><b>(2) 生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、働きながら学ぶことを奨励する。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアノートの活用とキャリアガイダンスの充実により、就労の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談を年7回実施。</li> <li>・4年生の進路希望の実現については、希望者6名全員実現。(学校からの斡旋希望者5名、自己開拓1名)。</li> </ul> <p>キャリアノート、キャリアガイ</p>	

	<p>奨励・推進を図る。ハローワーク等の関係機関との情報交換を月1回以上実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>○働きながら学ぶ生徒の割合を70%以上にする。</p>	<p>ダンスにより、就労の奨励を実施。ハローワークとの連携については、週1回情報提供をしてもらっている。また、就職試験が近づいてきたところで、集中的に情報交換、及び就労の支援のための企業への働きかけを支援してもらうことができた。特に外国人の就労に対する企業への働きかけにより、生徒の内定につながる事例もあった。</p>
--	---	---

**改善課題**

○基礎学力の取り組みをさらに推進し、生徒の自己肯定感や自尊感情を高めていく。

(生徒指導) 生徒への声掛け、授業中の巡回指導、個別連絡の徹底を図ることにより、生徒との関係性は、ますます良くなった。欠席や遅刻の際に、連絡や報告ができるようになってきたのもその表れと言える。

時に相手の立場に立って考えるという意識が薄い生徒もみられることから、引き続き状況に応じた継続的な指導を心掛ける。

○(学習指導) プリントに書く際に、答えを待って書き写す生徒がみられる。理解力をいかにつけさせるかが、課題の一つ。学年によっては日本語能力に不安のある外国人生徒を抱えるため、授業内容の選択には丁寧に指導する。

○生徒の生活環境・心理状態等の把握や、基礎学力・学習態度の育成につなげるため、1学期のはじめから年間を通した生活体験作文等の作文指導を有効に活用する。

○生徒の主体的な社会参画と自主性を育むためわかる授業の追求と特別活動や総合学習等、学校行事の充実も視野に入れて継続をはかる。

**(2) 学校運営等**

**【活動指標について】** 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

**【成果指標について】** 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

**【備考欄について】** 「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業改善	<p><b>(1) 効果的な授業づくりのために、計画的な授業研究や授業公開を実施する。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>○保護者等の授業参観を実施する。教職員間の校内授業公開日を設定する。また、関係中学校の生徒等の参加を中学校等を通じて促す。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>○授業参観数を増加させる。学ぶ喜び、わかる楽しさを実感させる授業の実現。</p> <p>○授業参観への参加者数25件を目標とする。(令和元年度21件)</p>	<p>授業公開週間への参加者が21名であった。その他にも中学生や中学生の保護者等の授業見学が約10件ほ</p>	◎

		どあった。	
資質向上	<p>(1) 学校の活性化(特に今後の学校の方向性)について職員間でのベクトル合わせを行い、本校教育の活性化に取り組む。</p> <p><b>【活動指標】</b> 職員研修の中で、学校の活性化(特に今後の学校の方向性)について検討する。(3回/年)以上</p> <p><b>【成果指標】</b> すぐに取り組めるものについては、率先実行する。 (率先実行に移せるものが3件以上を目標。)</p> <p>(2) いじめ防止、早期発見、早期対応についてしっかり取り組む。</p> <p><b>【活動指標】</b> すべての教育活動を通じた道徳教育、人権教育及び体験活動の充実を図る。 いじめの早期発見、早期対応のためアンケートを実施する。</p> <p><b>【成果指標】</b> いじめ防止に係る活動を3回/年を目標とする。 「いじめアンケート」3回/年実施 教員研修により、いじめ防止のための教員の資質向上を図る。</p> <p>(3) 新型コロナウイルスへの適切な対応に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b> 新型コロナウイルスについて、正しく生徒に理解させるよう努める。</p> <p><b>【成果指標】</b> 新型コロナウイルスについて生徒が正しく理解、行動ができるようになるべく早期に LHR 等において、指導を行う。また、ウイルスそのものについての保健教育にとどまらず、人権教育の観点からの指導も行う。</p> <p>(4) 学校における働き方改革を推進します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2日、定時退校日を設定する。</li> <li>・会議の所要時間、1時間以内を目指す。</li> <li>・各教職員の休暇取得を増やす。</li> <li>・全ての教職員が、研修会等に積極的に参加し、自らの資質能力</li> </ul>	<p>(1) 小さな規模の学校であるため、生徒に何か課題があれば、教員集団が情報共有を密にし、組織的に改善策に取り組むことができている。また、本校では外国にルーツを持つ生徒が多いため、日本語指導のありかたについて、積極的に話し合ったりしている。 ・新型コロナ対策のための生徒登校時の検温指導、中学生に対する体験授業の実施、生命を大切に<sup>いのち</sup>する講演会などを開催した。</p> <p>(2) いじめ防止に係るアンケート調査を3回/年実施。 教育相談の視点からも、命を大切にする、いじめを防止するための教員の資質向上につながる、研修や資料の提供を実施。</p> <p>(3) 新型コロナウイルスへの適切な対応に努めることができた。ウイルスに感染を防止するための保健指導にとどまらず、学校再開と同時に新型コロナウイルスに係る偏見、差別等防止の指導を実施。</p> <p>(4) 月二回の定時退校日だけではなく、平素からなるべく定時退校できるよう、日々の業務を自己管理できるよう平素から務めることができた。</p>	

	<p>の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年360時間越え並びに月45時間越えの時間外労働者の根絶。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の定時退校日の定時退校実現率90%以上を目指す。</li> <li>・会議の所要時間について80%以上が1時間以内である。</li> <li>・休暇(年休・夏季休暇)の取得状況を前年度と比較し、増えている職員数50%を目指す。</li> </ul> <p><b>(5)コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶に取り組む。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶を目指して、職員研修を実施する。</li> <li>○新聞報道等で不祥事の事例の記事があれば、情報共有に努め、教訓とする。</li> <li>○教職員がお互いに声をかけやすい環境づくりに努める。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コンプライアンス意識の向上・不祥事の根絶を目指して、職員研修を年3回実施する。</li> <li>○新聞等の不祥事事件を教訓とする件数(5件/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年360時間越え並びに月45時間越えの時間外労働者を根絶することができた。</li> <li>・定時退校実現率90%以上を実現できた。</li> <li>・R2年度 R1年度ともに本校に在籍した職員については、3/8人(37.5%)の増加であった。</li> </ul> <p>(5)平素から、職員同士が日常のコミュニケーションの中で、世間の不祥事についても話題にあげているので、コンプライアンス意識の向上を実践できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議の冒頭などで、学校長からコンプライアンス意識の向上、不祥事の根絶に係る話題の提供がある。「・個人情報を含む文書類管理に関する規定について」、「新型コロナウイルスに係る人権などについて」、「不審者対応について」、「教師から生徒への不適切な発言について」、「職員の綱紀粛正について」等をはじめ、かなりの件数を教訓としコンプライアンス意識の向上を図るよう努めている。</li> </ul>
危機管理	<p><b>(1)生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるように、防災・防犯等に係る非常時の対応力の強化を図る。</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○危機管理マニュアルを常に見直し、その運用の徹底を図るとともに、必要な事項を生徒・保護者へ周知する。また、消防署・警察署等と連携して、防災訓練・防犯訓練を実施し生徒の安全の確保を図る。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の危機管理意識の向上と生徒の安全意識の向上を指標とする。</li> </ul>	<p>(1)危機管理マニュアルについては、毎年見直しを行っている。消防署との連携により、防災訓練の質的な向上を図るようにしている。</p>

## 改善課題

○各教科において生徒が主体的・対話的に深い学びができるように、授業改善やわかりやすい授業実践に結びつけるため、ICT教育の研修にも取り入れる必要がある。また、外国人生徒に対する取り出し授業をはじめとした教科指導の場面では、生徒が自己のアイデンティティを大切にしながら、日本語で生活していくのに必要な知識を育む必要がある。

○教職員が少人数であることから、全職員が相互に授業を見て、学び、高め合う意識が大切である。

○総勤務時間縮減にむけては、負担が特定の教職員にかかることのないように、仕事の配分を考え、共助で対応する職場であり続けたい。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	「専門性の高い」学校としての取組を積極的にアピールし、入学志願者数の増加や地域からの信頼度の向上等に努めてもらいたい。また、「ウィズコロナ」も視野に、ICTの活用等の新しい教育活動の充実にも尽力してもらいたい。
---------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	4年間を通じての組織的、計画的な教育活動を推進し、生徒たちの興味関心を高めるために、例えば、総合的な探究の時間を活用し、講演会や地域に密着した学習を取り入れるなど、様々な仕掛けを教育活動の中で、工夫を凝らしていくことが、改善活動につながると考えられる。
学校運営についての改善策	働き方改革については、数値目標も大切ではあるが、教職員が元気な姿で、生徒たちの前に立てるよう、日頃から疲労がたまらないように、休暇等を効果的に活用していただきたい。授業公開や研究授業など様々な形態を取り入れながら、授業改善に取り組んでいくことは効果的であると考えられる。先進校事例や先進的な取組や研究をされている講師の先生を招いた研修会なども大きな効果が期待できると考えられる。